



月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載いたします。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申込みください。

e-mailで toukou@geppou.asj.or.jp 宛にお送りください。折り返し、受領の連絡をいたします。

人事公募

京都大学大学院理学研究科 准教授

1. 募集人員：准教授1名
2. (1) 所属部門・所属講座：京都大学大学院理学研究科 物理学・宇宙物理学専攻 物理学第二分野 宇宙線研究室
(2) 勤務地：京都市左京区北白川追分町
3. 4. 専門分野、職務内容・担当科目：高エネルギー宇宙物理学（実験）に関する研究・教育を行う。
5. (1) 着任時期：採用決定後できるだけ早い時期
(2) 任期：なし
6. 応募資格：なし
7. 提出書類
(1) 履歴書（顔写真、e-mailアドレス、着任可能時期を明記）
(2) 研究業績リスト
(3) 主要論文別刷5編以内
(4) 研究業績概要
(5) 着任後の研究計画（教育に対する抱負も含む）
(6) 本人について意見を伺える方2名の氏名と連絡先
8. 応募締切・受付期間：2023年8月4日（金）23:59
9. (1) 書類提出先：
京都大学大学院理学研究科 物理・宇宙物理学系 学系長 山本 潤
電子メールにて apply_at_scphys.kyoto-u.ac.jp 宛にpdf（最大サイズ20MB）を送付する（「_at_」を「@」に変えてください）。Subject欄は「宇宙線研究室 准教授」とし、ファイル受領の返信を必ず確認のこと。
(2) 問合せ先：
京都大学大学院理学研究科 物理学第二教室 教授 鶴 剛 電話：075-753-3868 e-mail: tsuru_at_cr.scphys.kyoto-u.ac.jp（「_at_」を「@」に変えてください）

10. 応募上の注意
必要と判断した場合、セミナーをお願いする場合があります。
11. その他（待遇など）
http://www.scphys.kyoto-u.ac.jp/news/public.html#koubo_20230511 を参照のこと。

東京大学大学院理学系研究科天文学専攻 助教

1. 職種及び公募人数：助教 1名
2. 職務内容（専門分野）等：天文学専攻には現在、宇宙論・銀河形成・銀河進化・高エネルギー天体現象・星惑星系形成・アストロケミストリーなどの研究グループがあり、理論および観測的研究を進めています。これらのグループおよび理学系研究科附属天文学教育研究センターのグループとも協調しながら、世界第一線の研究をリードできる方を求めます。また天文学専攻の専任教員として大学院および学部教育も担当していただきます。
3. 勤務地：東京大学 大学院理学系研究科天文学専攻 天文学教室（東京都文京区本郷）
4. 応募資格：博士の学位を有すること
5. 着任時期：決定後できるだけ早い時期
6. 待遇：俸給は学歴・職歴経験等を考慮して決定します。本学の規定する期末・勤勉手当、通勤手当があります。保険は文部科学省共済組合と雇用保険に加入します。
7. 任期：なし
8. 就業日・就業時間：専門業務型裁量労働制により、1日7時間45分勤務したものとみなされます。
9. 休日：土・日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）、年次有給休暇、特別休暇 等
10. 選考：書類選考の上、合格者に対し面接を実施。なお、面接予定者のみ連絡いたします。
11. 応募書類：以下の応募書類を1つのPDFにまとめたうえで、件名を「東大天文学教室助教応募」とした上で以下の宛先に送付すること。メール送付後、（土日祝を除く）3日以内に受信確認のメールが届かない場合は下記問い合わせ先まで電話ま

たはメールすること。

- 1) 東京大学統一履歴書（以下の URL からダウンロードし作成すること）

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/jobs/r01.html>

- 2) 研究業績リスト（主著・共著別）
- 3) 主要論文3編以内の別刷り
- 4) これまでの研究教育業績の概要（A4用紙2枚）
- 5) 着任後の研究計画と抱負（A4用紙2枚）
- 6) 応募者について意見を伺える方3名の氏名、所属、連絡先

なお、以下の「東京大学卓越研究員」にも必ず応募してください。スタートアップ経費300万円／年が2年間支援されます。令和5年6月19日(月)17時までに応募登録を行うこと。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/jobs/index.php>

（区分を【教員・研究員】、種別を【教職員】で絞り込みしてください）

12. 応募締切：令和5年6月26日(月) 必着

13. その他：

本研究科では、男女共同参画を積極的に推進しています。詳しくは下記 URL の理学系研究科男女共同参画基本計画をご覧ください。

<https://www.s.u-tokyo.ac.jp/ja/overview/gender/>
研究者として旧姓使用をされている方は旧姓で応募書類を作成して頂いて構いません。

14. 送付先：apply2023@astron.s.u-tokyo.ac.jp

15. 問い合わせ先：

東京大学 大学院理学系研究科天文学専攻 専攻長 柏川伸成

tel: (天文事務室) 03-5841-4251

e-mail: apply2023@astron.s.u-tokyo.ac.jp

16. 募集者名称 国立大学法人東京大学

研究助成

公益財団法人 宇宙科学振興会 2023 年度助成事業 2 件公募のご案内

公益財団法人宇宙科学振興会は宇宙科学分野における学術振興を目指し、2023年度も引き続き下記の助成事業を行います。それぞれの応募要項の詳細は当財団のホームページ：<http://www.spss.or.jp> に掲載しています。それぞれの公募に対する応募申請に際して

はホームページご参照の上、申請書をダウンロード・作成いただき必要な書類を添付の上、財団宛に電子メール（admin@spss.or.jp）で申請下さい。奮ってご応募いただくようご案内申し上げます。

- (1) 国際学会出席旅費の支援

●支援対象

宇宙理学（飛翔体を用いた観測、探査、実験に関連する理学研究）および宇宙工学（宇宙航空工学を含む）に関する独創的・先端的な研究活動を行っている若手研究者（当該年度4月2日で35歳以下）、またはシニアの研究者（当該年度4月2日で63歳以上かつ定年退職した者）で、国際研究集会で論文発表または主要な役割などが原則として確定している者。海外で開催される国際学会に限ります。リモートでの参加の場合でも参加費（上限5万円）については支援します。

- 助成金額・件数：一件あたり10～30万円程度、年間10件程度

●申し込み受付時期

応募締切り2023年8月31日：2023年10月から2024年3月の期間に開催初日が予定される国際学会の参加者対象

応募締切り2024年2月29日：2024年4月から2024年9月の期間に開催初日が予定される国際学会の参加者対象

- (2) 国際学会開催の支援

●支援対象

宇宙科学研究を推進している国内の学術団体（研究所、大学等）で、宇宙理学（飛翔体を用いた観測、探査、実験に関連する理学研究）及び宇宙工学（宇宙航空工学を含む）に関する国際学会、国際研究集会の国内開催を主催しようとする団体。リモートでの開催も支援対象です。

- 助成金額・件数：一件あたり20～50万円程度、年間4件程度

●申し込み受付時期

応募締切り2023年8月31日：2023年10月から2024年3月の期間に開催初日が予定される国際学会対象

応募締切り2024年2月29日：2024年4月から2024年9月の期間に開催初日が予定される国際学会対象

●照会先

公益財団法人宇宙科学振興会事務局 <http://www.spss.or.jp>

〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台3-1-1
 Email: admin@spss.or.jp
 Tel: 042-751-1126

会 務 案 内

欧文研究報告 (PASJ) に関するお知らせ

(1) PASJ への論文投稿のご案内

PASJでは、皆様からの積極的なご投稿をお待ちしております。

欧文研究報告 (PASJ) は、天文学及びその関連分野のオリジナルな研究論文を公表する、日本天文学会刊行の (ハイブリッド) オンラインジャーナルです。また著者はオープンアクセス出版を選択することもできます。現在の Impact Factor は 3.310、直近5年間平均は 3.952 で、約 1,900 の機関で購読されています。掲載論文の種別として本論文、レター、レビューの3種類を設けており、また特定のテーマに絞った論文集を掲載する特集企画も受け付けております。

日本天文学会では、PASJ に出版された優れた論文を称賛し、今後も優れた論文が投稿・出版されることを奨励するために欧文研究報告論文賞を設けています。電子版HPのトップページには最新の掲載論文、これまでの特集企画やレビュー論文と共に近年PASJ論文賞を受賞した論文、良く引用された論文、良く閲覧された論文などの一覧も掲載されています。

日本天文学会正会員であれば掲載料は申請により割引され、創刊号から最新号に渡る全ての論文をアクセス制限なく閲覧することができます。また、日本天文学会会員の学位論文に密接に関わる論文の審査に於いては、学位審査のスケジュール等を伺った場合、可能な限り柔軟に対応するよう運営しております。また、英語校正サービスを割引で利用出来ます。

皆様からの積極的なご投稿をお待ちしております。

(2) 査読用原稿の体裁変更

2023年より査読用原稿の体裁を、Draft形式 (ダブルスペース/1段組) から、出版時の体裁 (シングルスペース/2段組) へ変更しました。但し、長い式を含む論文については、シングルスペースで1段組みの体裁でも構いません。従来通り、頁数および行番号も必ず挿入してください。

※2段組の原稿に行番号を挿入する方法:

LaTeX ファイルのプリアンブルに“\usepackage[switch, mathlines]{lineno}”を追加し、“\end{abstract}”の後

には、“\pagewiselinenumbers”を追加

投稿査読システムに登録された査読用原稿はそのまま査読に用いますので、読み易い体裁であるか十分に確認の上、投稿してください。原稿の体裁や作成時の注意点などについては、日本天文学会ホームページの「論文投稿案内」をご覧ください。

<<https://www.asj.or.jp/jp/activities/pasj/submit/>>

(3) オープンアクセス論文掲載料の改定

「2023年8月以降」に投稿された論文を対象に、オープンアクセス論文掲載料 (OxfordOpen 料金) を以下の通り改定いたします。

基本料金: 341,476円

正会員割引料金: 273,182円

オープンアクセス論文掲載料は、掲載論文の種別と頁数に関係なく一律です。正会員割引料金は、筆頭著者に限らず本会正会員が1名でも著者に含まれていれば適用可能です。但し、割引料金は自動的に適用されるものではなく、掲載料に関するお手続きの際に必ず正会員の方の会員番号を申請していただく必要があります。

何かご不明な点がありましたら欧文研究報告編集部へお問い合わせください。

欧文研究報告編集委員会

入退会のお知らせ

2023年5月21日に開催された公益社団法人 日本天文学会理事会において、正式に入会が承認された方、退会が報告された方の人数をお知らせします。

入会 正会員: 28名 準会員: 14名

退会 正会員: 171名 準会員: 66名 団体: 4団体

編集委員会より

ご挨拶

今期の天文月報の編集委員長という大役を仰せつかりました。1908年の発刊以来120年近い歴史のある伝統的な雑誌の編集長ということで、その名に恥じぬように頑張っていきたいと思っております。

天文月報は、宇宙に関する最新の研究成果を、一般の人たち向けに、研究者自身が日本語で伝えられる媒体として、その価値は非常に高いと感じています。私自身も大学で、天文月報の記事の輪講を学部生対象の

ゼミで実施しております。

天文月報が今後もますます天文学の裾野を広げていけるように努めていきたいと思ひます。

津村耕司 (東京都市大学)

今期も引き続き編集員を務めさせていただき岩崎です。私の専門分野(星・惑星形成)の研究成果はもちろんのこと、専門外の研究成果も読者の皆様にわかりやすくお伝えする手助けができたらと思ひます。今期もよろしくお願ひします。

岩崎一成 (国立天文台)

今期より編集員を拝命しましたじょうてんです。中高生の頃、国語の点数は著しく悪かった私ですが、それゆえに誰か読んで理解しやすい文章を書くことにいつも気をつけています……どれだけできているかは読者の方にお任せしますが、

文章にはそれぞれ執筆者の個性が出来ますので、それできるだけ活かすような編集を心がけたいと思ひます。

岡本文典 (国立天文台)

編集員2期目となりました。1期目を振りかえりますと、小平桂一さんのインタビュー記事の編集を担当したことが思い出深く、また専門の銀河分野も含めたさまざまな方面の記事を担当させていただき、自身にとってたいへん勉強になりました。引き続き魅力的な記事をお届けのお手伝いができればと思ひます。よろしくお願ひします。

小野寺仁人 (国立天文台)

編集員2期目を迎えました。専門分野はX線による超新星残骸の観測的研究です。最近では地球超高層大気の観測的研究にも力を入れています。これまでの2年間、愛読する天文月報の編集に携われたことは光栄でした。後半2年間も、天文月報がより魅力ある雑誌になるよう貢献していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

勝田哲 (埼玉大学)

2期目となります、川中です。ブラックホール、宇宙線の関わる高エネルギー天体現象の理論的研究を専門としております。1期目はいくつかの記事と特集を担当させていただき、学会誌の編集という仕事の面白さと重要性、そして何より改めて天文月報の影響力の大きさにも気づかされました。2期目はさらに「攻めた」企画の提案をするなど、天文学の研究・普及に独

自の貢献ができればと考えています。よろしくお願ひします。

川中宣太 (東京都立大学)

今期から編集員を務めることとなりました日下部です。主な専門分野は系外惑星ではありますが、アストロバイオロジーセンター所属ということもあり、学際的な分野にも興味があります。月報は天文学のさまざまな分野に触れられる雑誌ですので、専門以外にも分かりやすくお届けできるよう努めたいと思ひます。

日下部展彦 (アストロバイオロジーセンター)

今期より編集員を務めさせていただきます。専門は超長基線電波干渉計(VLBI)による活動銀河核ジェットやブラックホール周辺の観測的研究です。至らない点もあると思ひますがどうぞよろしくお願ひいたします。

小山翔子 (新潟大学)

今期より編集員を務めさせていただきことになりました。星質量ブラックホールの観測的研究(主にX線)を専門としておりますが、異なる分野も含め、天文学の最新の研究成果や興味深い話題を、読者の皆様にわかりやすく伝わるよう努めたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

志達めぐみ (愛媛大学)

この度、編集員に新たに加わりました鈴木大介です。毎月届く天文月報。読まずにそのままの時もありましたが、海外にいた際は日本からの唯一のお便りとして嬉しく読んだこともありました。編集員として新たな気持ちで、より良い雑誌になるように努めてまいります。よろしくお願ひいたします。

鈴木大介 (大阪大学)

今期より編集員を務めさせていただき鳥海です。太陽物理学を中心に、観測データ解析や数値シミュレーションによる研究を行っています。幅広い読者の皆さまに楽しんでもらえる記事を提供できるよう、頑張ります。

鳥海森 (ISAS/JAXA)

月報編集員2期目です。これまでに多くの記事に携わらせていただき、自分の専門以外の研究にも触れることができ楽しく仕事をさせていただいています。今年も多くの皆様に世の中の面白い天文研究を発

信できるよう努めてまいります。

西澤淳（名古屋大学）

このたび天文月報の編集委員を務めさせていただくことになり、大変光栄に思います。天文月報は、プロアマ両方の研究者同士を繋ぐ大切な架け橋でもあります。最先端の研究成果を含む様々な話題を分かりやすくお伝えできるよう努めてまいります。専門分野は天の川銀河のX線観測と、装置開発です。どうぞよろしくお願ひします。

信川久実子（近畿大学）

今期から編集委員を務めさせていただきます。専門は遠方銀河の観測研究です。今後もこれまでと同様に、幅広い読者の方々に楽しんでいただける記事の作成に貢献したいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

橋本拓也（筑波大学）

継続して編集委員を務めます仏坂です。コンパクト天体や重力波天文学が専門です。幅広いテーマで、専門外の読者の方にも読みやすい記事をお届けできるように頑張ります。よろしくお願ひします。

仏坂健太（東京大学
ビッグバン宇宙国際研究センター）

今季より編集委員を務めさせていただきます宮本です。専門は近傍銀河の電波観測です。初めての雑誌編集ということで至らないことばかりだと思ひますが、精一杯頑張りたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

宮本祐介（福井工業大学）

星空市場

[意見]

夜明・日暮はどれだけ需要があるか

「理科年表」には東京における一年間を通じた夜明・日暮の時刻が載っている。「夜明・日暮の時刻は寛政暦以降の明六つ、暮六つにあたり、太陽の中心の伏角が $7^{\circ}21'40''$ になる時刻である」[1]。東京以外の都市の数値はない。

ところで薄明には国際的に次の3種が認められている[2]。

- (1) 常用薄明 太陽中心の伏角 $50' \sim 6^{\circ}$
 (2) 航海薄明 // $6^{\circ} \sim 12^{\circ}$

- (3) 天文薄明 // $12^{\circ} \sim 18^{\circ}$

日本独特の薄明である夜明・日暮にはどれだけ需要があるのだろうか。むしろ、天文薄明の方が天体観望会などに役立つのではないか。東京での値に各地の経度差・緯度差と係数 a , b を掛けた補正値を加えればその地での天文薄明が得られる[3]。社会は気付かぬうちにいつのまにか変わっている。私たちは絶えず社会に目配りし、需要に合った情報を提供しなければならぬと思う。

参考文献

- [1] 「理科年表」2002年版, 丸善 p. 2, p. 34
 [2] 「天文学辞典」(シリーズ 現代の天文学 別巻) 日本評論社2012 p. 323
 [3] 「天文年鑑」2019年版 誠文堂新光社 p. 77

天文月報オンラインのIDとパスワード

ID: asj 2023

パスワード: 雑誌コード(5桁の数字)と **vol116**(6文字)の計11文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○-▲」の○○○○○の部分です。○○○○○は各号共通の数字です。

編集委員: 津村耕司(委員長), 岩崎一成, 小野寺仁人, 勝田哲, 川中宣太, 西澤淳, 仏坂健太, 岡本文典,

日下部展彦, 小山翔子, 志達めぐみ, 鈴木大介, 鳥海森, 信川久実子, 橋本拓也, 宮本祐介

令和5年6月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒162-0801 新宿区山吹町332-6 株式会社 国際文献社

定価733円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359 (事務所) / 0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <https://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

会費には天文月報購読料が含まれます。

©公益社団法人日本天文学会2023年(本誌掲載記事は無断転載を禁じます)